



福島の子どもたちと
家族の笑顔のための保養プログラム

福島ぽかぽか プロジェクト

2018 年度報告書

□福島ぽかぽかプロジェクト事務局：国際環境 NGO **FoE Japan**

〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9 TEL：03-6909-5983

担当：矢野恵理子 090-9364-6472 eri8888yano@gmail.com

□運営団体：渡利の子どもたちを守る会 / 福島老朽原発を考える会（フクロウの会） / 国際環境 NGO FoE Japan

□協力：公益財団法人共生地域創造財団 / 福島に心を寄せる房総の会



福島ぽかぽかプロジェクトは、子どもたちがのびのび遊び、お母さん方が悩みを分かち合う場を提供しています。

はじめに

「福島ぽかぽかプロジェクト」をいつも温かくご支援いただき、ありがとうございます。

東京電力福島第一原発事故から8年目を迎えた2018年、福島は何事もなかったかのように静かに時間が流れています。復興を掲げる政策の中、原発事故の前の状況に戻ったわけではない環境の中で、懸命に子育てをしているたくさんのお父さんお母さんがいます。ぽかぽかプロジェクトの需要は多く、希望に十分に答えることができておりません。

2018年の報告と、これからぽかぽかが目指す活動を、みなさまに見ていただき、今後とも、継続的なご支援をよろしくお願いたします。



「福島ぽかぽかプロジェクト」2018年度実施報告

保養プログラム 開催回数 11回、総参加者数 328名（県外ボランティアを含む総参加者数 366名）

2018年	4月28日～30日	(2泊3日)	猪苗代ぽかぽかハウス	37名	
	5月3日～6日	(3泊4日)	猪苗代ぽかぽかハウス	22名	
	7月14日～16日	(2泊3日)	猪苗代ぽかぽかハウス	29名	
	7月30日～8月1日	(2泊3日)	猪苗代ぽかぽかハウス	29名	★自主ぽかぽか
	8月6日～9日	(3泊4日)	猪苗代ぽかぽかハウス	27名	★自主ぽかぽか
	8月19日～25日	(6泊7日)	南房総	33名	
	11月23日～25日	(2泊3日)	猪苗代ぽかぽかハウス	28名	
2019年	1月4日～7日	(3泊4日)	猪苗代ぽかぽかハウス	25名	
	1月12日～14日	(2泊3日)	猪苗代ぽかぽかハウス	40名	
	3月23日～25日	(2泊3日)	猪苗代ぽかぽかハウス	30名	
	3月30日～31日	(1泊2日)	猪苗代ぽかぽかハウス	28名	

エネルギーワークショップ

2018年 4月1日 参加者 28名（かながわ元気エネルギー実行委員会との共同企画）
大学生によるワークショップ、会津電力 太陽光発電所見学

2019年 3月29日 参加者 17名
大学生によるワークショップ、元気っ子つちゆ バイナリー発電所・小水力発電所見学、
東京電力ホールディングス 水力発電所の見学

報告会

2018年 10月28日 「ぽかぽか南房総報告会&意見交換会 in 福島」（福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ）
11月4日 「どう伝える？福島のこと」（福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ）

進化する 『福島ぽかぽか プロジェクト』

1 自主企画ぽかぽかスタート

自分で友だちを誘い、企画から運営までを自分たちで実施する『自主ぽかぽか』を2回開催しました。また、2019年1月からは、事前にLINEグループで連絡を取りながら、参加者が、メニューや行動計画を協力して決めています。自らで企画することにより、大変ですが達成感があります。自分たちがやりたい保養をぽかぽかで実現できるようにいっしょに作り上げていきます。

2 参加者からボランティアへ

参加者の中から、高校生になりボランティアとして参加してくれる子どもたちが増えています。大学生が友人を誘って来てくれたり、将来ボランティアをしたいと希望する子どもたちも数多くいます。お母さんお父さんの中にもボランティアとして関わってくださる方が増えてきて、ぽかぽかハウスの管理も4名のお父さんたちが担っています。

3 ユースチームのエネルギー講座

原発事故を子どもたちにどう正しく伝えていくのが課題であると私たちは考えています。そのために、自分たちで考え、発信していく力を付ける目的で、2回のエネルギーワークショップを実施しました。ワークショップは大学生が企画・運営し、ユースチームの小学生高学年から大学生までが参加しました。受講者は参加型のワークショップやセミナーに出席したほか、様々なエネルギーを使った発電所（太陽光・小水力・水力・バイナリー）を見学しました。

4 お母さん方が各地で講演すること (声にすること)

福島で暮らしながら、その経験や思いを声にすることは、大変な勇気が必要です。

ぽかぽかプロジェクトに参加しているお母さんやボランティアの若者が、各地に呼ばれて講演をすることが増えてきました。原発反対運動に大きく声をあげているわけではない普通のお母さんや大学生がする話は、各地の支援者やお母さん方の心に響き、共感を呼びました。

当時の話、今の心情、辛い話をするのはとても大変なこと。それを乗り越えて講演してくださる方々に感謝した貴重な機会でした。



2019年3月、FoE Japan 主催の「どう伝える？ 原発事故のこと」ではぽかぽかプロジェクトのお母さんと若者がスピーチしました。

5 報告会やセミナー勉強会の開催

福島市で2回報告会を開催しました。また、福島大学の後藤忍先生をお呼びして放射能についてどう伝えるか考えるセミナーを開催したり、ドイツの財団の方からドイツでの反原発運動の動きについてお話いただきました。

また、ぽかぽか開催中に、高木学校の崎山比早子先生に甲状腺の話を、内科医の今田かおる先生に甲状腺検査や終末医療のお話をさせていただきました。参加者からは、里親について話していただく機会もありました。ぽかぽかに参加したお母さんお父さんを対象に、報道では触れられない福島の今の状況（通学路の線量、土壌汚染や農産物・海産物、モニタリングポストなど）について、簡単な勉強会を開催しています。



裏庭のブランコ (ぼかぼかハウス)



そり遊び (猪苗代スキー場)



味噌作り (ぼかぼかハウス)



安心・おいしい食べ物 (ぼかぼかハウス)

参加者の声

子どもが自由にのびのび過ごせることが私の何よりのストレス解消です。数家族が集まっても干渉し合わない感じが心地よいです。ぼかぼかハウスは私の子育てになくてはならない存在です。いつも開催してくださり感謝いたします。

震災からもう8年も経ちますが、参加されている皆さんからはいまだにあらたな線量や、食料、対人などの悩みが多いことを伺い、本当にぼかぼかという場所があって良かったと、毎年毎回実感しております。

そして子どもたちが、体にいい食べ物を取り入れながら、思い切り自然とふれ合える場所が提供されるありがたさに感謝しております。

震災からもうすぐ8年が経とうとしていますが、福島で生活する親子にとっては、今でも震災前と同じ生活とはいっていないのが現状です。

子どもたちの将来の為に、今できることをやってあげたいと思う親の気持ちを叶えてくれるのが、ぼかぼかプロジェクトです。線量を気にせず思いっきり身体を動かして遊ぶ子どもを見るのは本当に嬉しいです。また、普段の生活ではなかなか話にくい放射能の話題についてみんなで勉強したり話し合える場でもあり、親子共々、毎回楽しませていただいています。

夜の交流会で、私の周りにいる福島のお母さんの現状について少し悩んでいたもので、その話ができ良かったです。

震災から時が経つにつれて段々と記憶が薄れ、放射能の事も気軽に口に出せる話ではなくなっている状況です。そんな中ぼかぼかにいくと私もとても安心して過ごせています。本当にありがとうございます。ぼかぼかから帰ってくるといつも寂しいです。機会があればまたぜひ参加させてください。

崎山先生をお招きしての甲状腺の勉強会は大変有意義なものになりました。

子どもたちはクイズをしながら甲状腺の勉強ができました。大人も間違えそうな問題もあり、子どもにとって甲状腺を考える良い機会になったと思います。今田先生に甲状腺検査をしていただけたこともとてもありがたかったです。

子どもは学校で検査をしますが、検査結果が届くだけでその場で詳しく説明してもらえないので、話を聞くことができ良かったです。



ザリガニを探せ！（猪苗代カメリーナ公園）



スイカ割り（南房総）



勉強会（ぼかぼかハウス）

福島は今

ぽかぽか参加者の置かれている現状

放射能に関して、話のできない状況

国や福島県は、「福島は安全です！放射能の心配はいりません！風評被害を払拭しましょう！」と声高にキャンペーンを行っています。

そんな中、被ばくや健康被害に対する不安を家族や友人の間でも話すことはなかなかできません。不安や心配を心の奥にしまい込んだまま、何もなかったかのように毎日過ごしています。

そして、近所や親せきから、山菜やきのこ、たけのこをいただくことも増えました。

保養に来て、子どもたちが思いっきり外遊びすること、安全安心な食事ができることに加え、放射能のことや被ばくのこと、健康の不安や家族と意見の違うことなど自由に話せることが、参加者から求められています。

今の福島の問題点

- 1 「福島は安全です」という復興キャンペーンの中、放射能に関して話すことができない。
- 2 除染により出た汚染土を公共事業や農地造成などに再利用する計画が進められている。
- 3 ALPS 処理・汚染水にトリチウム以外の放射性物質も多く含まれていることが分かったが、海洋放出が検討されている。
- 4 子どもたちの甲状腺がんは、200 人を超えたが、放射能の影響とは考えにくいと福島県の検討委員会は結論付けた。
- 5 原発事故を子どもたちにどう伝えるかと悩む中、放射線に関する副読本が全国に配られ、放射能や被ばくに関して触れられていないなど、内容の妥当性に疑問を持つ専門家もいる。
- 6 原発事故子ども・被災者支援法の基本方針で予算化された「ふくしまっ子自然体験・交流事業」の予算は、年々減額され、2019 年度はふくしま復興事業に組み込まれてしまった。
- 7 モニタリングポスト 2000 台の撤去が発表された。（お母さん方が立ち上がり、署名運動や申し入れを続け、2019 年度は引き続き設置されることになった。）
- 8 空間線量は確かに下がったが、土壌汚染はまだまだ続いており、除染が終わった通学路や公園でもホットスポットが存在する。
- 9 基準値以下のセシウムであっても、毎日摂取することにより、体内に累積的に蓄積されることが懸念される。きのこ、たけのこ、山菜などが除染されていない場所で採られ、測られないまま、出回り始めている。
- 10 避難者への住宅支援の打ち切りにより、経済的、精神的に苦しい状況に陥っている避難者がいたり、避難解除により帰還可能になった地域でも帰らない選択をする人も多くいる。



1 保養プログラム

毎回キャンセル待ちが何家族もある状況の中、1回でも多く、1日でも長く「福島ぼかぼかプロジェクト」を開催することが求められています。

できるだけ多くの寄付を集め、可能な限り経費を節約することが重要です。

今年度は、参加者たちが自ら企画・運営する「自主ぼかぼか」を中心に、年10回以上実施する予定です。参加者にぼかぼかを運営する自発性や責任感を持ってもらい、自分たちのやりたい保養を実現する楽しみや達成感を感じられるぼかぼかに少しでも近づけたらと思います。

また、福島の問題を客観的にとらえ、別の角度から考えるためにも、水俣・長崎への学習旅行を計画します。1年目は試行として、お母さんお父さんと中高生を対象に実施する予定です。

保養プログラムの実施予定 いずれも猪苗代ぼかぼかハウスにて実施。総参加者数300名を予定。

2019年	4月27日～5月6日	GW ぼかぼか
	7月20日～22日	通常のぼかぼか
	7月26日～28日	自主ぼかぼか
	8月5日～8日	自主ぼかぼか
	10月12日～14日	自主ぼかぼか
2020年	11月2日～4日	通常のぼかぼか
	1月（2回開催）	自主ぼかぼか（スキー・スノーボード・そり遊び）
	3月	自主ぼかぼか（味噌作り）
	3月	水俣・長崎学習旅行

2 報告会・勉強会

福島市、郡山市などで、保護者向け、若者向けの報告会や勉強会を開催します。

3 ユースチームの活動

エネルギーワークショップの開催

小学高学年・中高生を対象に、大学生が企画して実施します。

国際シンポジウムへの協力・参加

2020年3月ドイツの財団が、ベラルーシの専門家やメディア・若者を連れて訪日し、東京と福島でセッションや国際シンポジウム、展示等の実施を計画しています。訪日した若者のアテンドや彼らとのセッションの企画・運営にぼかぼかユースチームの大学生やお母さんお父さん方が参加します。

ドイツ訪問に向けての学習会

2020年4月にドイツにて、ヨーロッパの大学生を集めて、SDGs（持続可能な開発目標）や原発の問題をテーマに様々なワークショップが開催されます。ぼかぼか関係者の大学生3名が参加、事前には勉強会等も開催する予定です。

4 インタビュー映像作成

参加者のお母さん、お父さん、若者に、原発事故当時のことや今の状況を話してもらうことにより、これから先必要な支援は何なのか、これからのぼかぼかはどう進むべきかを広く多くの人たちと考えていきます。

5 支援団体への報告会で講演

支援団体への報告会等で、ぼかぼか参加者のお母さんお父さんや若者に福島の状況を話してもらう機会を作ります。福島に暮らし子育てすることの大変さを広く知っていただくとともに、講演者本人も、自分の置かれた状況と気持ちを整理し、困難に立ち向かう力を付けてくれればと思います。

ぽかぽかプロジェクトの背景と経緯

FoE Japan は、原発事故直後から、避難基準として採用された年 20mSv は撤回し、少なくとも公衆の被ばく限度である「年 1mSv」以上の地域については、避難してもとどまっても支援・賠償が受けられる「避難の権利」を認めるべきであるとし、運動を展開してきました。しかし、日本政府は「年 20mSv 以下の地域では避難の必要はない」という方針を変えず、結果として、避難したくてもさまざまな理由で避難できない人たちが取り残されてしまうという事態が生じました。

こうした事態をうけ、FoE Japan は、他団体と協力して 2012 年 1 月より「福島ぽかぽかプロジェクト」という週末保養プログラムを開始しました。2012 年度、土湯温泉での保養には総計約 2500 名が参加しました。2013 年 4 月より、猪苗代での週末保養・千葉県南房総での春や夏の長期保養を含め、年 7 回～10 回プログラムを実施してきました。2015 年 1 月より、猪苗代の元ペンションを FoE Japan が借り受け、「ぽかぽかハウス」とし、今は他の保養団体も活用しています。2013 年からの参加者は累計 1,667 人となりました。

現在では、参加した子どもたちが成長しボランティアとして関わっており、お母さんお父さん方の 8 名がスタッフとして一緒に企画・運営・管理をしています。2016 年 4 月には、高校生たちがドイツに滞在し、ドイツやベラルーシの若者たちと交流しました。また、子どもたち向けのエネルギーワークショップなどを開催しています。保養団体が減少する中、1 日でも長く継続する保養でありたいと、2018 年より参加者自ら企画運営に関わるプログラムを増やし、福島の皆さんと力を合わせて「福島ぽかぽかプロジェクト」を運営しています。



2018 年度の『福島ぽかぽかプロジェクト』は、多くのみなさまのご寄付により実現しました。改めて心より御礼申し上げます。

福島の子どものための保養はまだまだ必要です。引き続き温かいご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

ご支援、ご寄付のお願い ★税制優遇を受けることが可能です★

銀行振込 振込先：城南信用金庫 高円寺支店 普通 358434
エフ・オー・イー・ジャパン

※送金後、メールまたは電話にて事務局までご連絡ください。

郵便振替 郵便振替口：00130-2-68026 口座名：FoE Japan

※「ぽかぽか寄付」とご明記の上、差支えなければ、住所、氏名をご記入ください。

ボランティアのお願い

ぽかぽか実施時に、猪苗代に来て、子どもたちと遊んでくださる方、キッチンでお母様方と一緒に食事を作ってくださいる方を大募集しております。往復の移動、宿泊、食事はご用意いたします。

お問合せ先

福島ぽかぽかプロジェクト事務局：国際環境 NGO FoE Japan 〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9

TEL：03-6909-5983 担当：矢野恵理子 090-9364-6472 eri8888yano@gmail.com

ぽかぽかブログ：<https://ameblo.jp/pokapro/>